

M I O S U J I みおすじ

第21号

発行 愛知県立三谷水産高等学校同窓会
〒443-0021 愛知県蒲郡市三谷町水神町通2-1
TEL.0533-69-2265 FAX.0533-67-7699

『母校三谷水産高校と蒲郡産学官連携事業』 ～あわびの陸上養殖プロジェクト～

同窓会長(昭和42年漁業科卒)
鎌田 篤司



同窓会役員を代表して、三谷水産高校の同窓会員の皆様の、いつも変わらぬご支援・ご協力に対して、まずお礼を申し上げます。

同窓会は、それを運営して行く為には、同窓会員の皆様方の会費等々の

浄財で成り立っております。それらを原資として、同窓会の機関紙である「みおすじ」の発刊・発送、そして各クラブ活動の全国大会出場時等に支援をさせて頂けるのも会員諸氏のお陰です。

私が同窓会役員として名前を連ねている事が、母校とその同窓会にどれ程のプラスの効果があったのか？は、それはそれで忸怩たる思いです。

しかし、この度の蒲郡市議会9月定例会の一般質問で「あわびの陸上養殖について」を取り上げた。これは直接的には私の質問ではなかったが、市議会議員である「鎌田篤司」が「三谷水産高校の同窓会長という事で多少お役に立てたか」と思えたので、ここで紹介をさせていただきます。

「あわびの陸上養殖について」の質問者は三谷水産高のお膝元の三谷町在住の「広中昇平市議」でした。広中市議は、私と同じ会派に所属し、平成23年4月初当選後、ずっとこの問題に取り組ん

で来ました。今回は(1)「産学官連携事業」(2)「がまごおり産学官ネットワーク会議」(3)「陸上養殖プロジェクト」等を質問しました。主な質疑を披瀝致します。

問(広中昇平市議員) 「あわびの陸上養殖プロジェクト」の今後の推移については。

答(小林企画部長) 「あわびの陸上養殖」が蒲郡の水産業並びに観光分野での新産業になる事を目指しています。「三谷水産高校」発のベンチャー事業として位置づけ、「三谷水産高校」が数年掛けて開発した蒲郡独自の「養殖あわび」の技術の確立を考えたい。

本年度はまず、愛知工科大学にも工業面でのサポートをして貰い、「がまごおり産学官ネットワーク会議」も活動全般の支援を考えており、県の栽培漁業センターで稚貝の提供、県港湾課や水産試験場等の協力も予定しています。

以上は、広中市議と市当局のやり取りの一部を抜粋したものです。これに対する予算についても、国は鈴木克昌代議士、県は飛田県議、そして稲葉蒲郡市長等各方面に、私や広中市議も所属する「蒲郡自由クラブ」で要求をしていきます。

その他にも、企画部長が「三谷水産高校の生徒にとって、『あわびの陸上養殖』は、探索研究から養殖の実施、また事業化プロセスでも総合的に学び、体験する貴重な機会になる。卒業後に専門性を活かして、新たな雇用の場の創出が期待できます。」と答弁した。

私はこの企画部長の答弁に特に注目したが、このように、学校と蒲郡市や県・国が一体となって推進をしていく事業こそが「母校県立三谷水産高等学校開校(講)100周年に向けて」の文字通り「みおすじ」になると思います。

同窓会長としての挨拶文としては、少し変則的な文章になったかもしれませんが、同窓会は母校



H24.5.25(金) 三谷水高での「蒲郡自由クラブ」による、「あわびの陸上養殖」等の勉強会